第２回連絡会議事録

日　時：昭和４９年１１月１８日（月）１３：３０～１７：００

場　所：　気　　象　　庁

出席者：永田、横山、高木、下鶴、行武、青木、久保寺、加茂、太田（九大）、渡辺、杉岡、日高（文部省）、瀬戸、杉浦、有住、諏訪、末広。

臨時委員：高橋（国立防災科学技術センター）

1. 永田会長文化勲賞受賞

　　祝　　辞　　下鶴委員

2. 第１回火山噴火予知連絡会議事録　（案）の確認

3. 昭和４９年７月１６日開催幹事会報告　　末広委員

4. 火山カルテ　（案）の検討

気象庁から、さしあたり、常時火山観測を実施している１６火山（地震課提出）および三宅島（諏訪委員提出）の火山カルテ（案）が提出された。

提出された火山カルテ（案）について、下記の分担で各委員が検討することになった。

北海道　：　横山委員
東　　北　：　高木委員
関　　東　（伊豆大島・三宅島を含む）　：　地震研究所委員
中　　部　：　気象庁委員
海底火山　：　水路部委員
阿蘇山・桜島　：　京都大学委員
雲仙岳　：　九州大学委員
霧島山　：　下鶴委員
南西諸島　：　京都大学委員
全　　国　：　国土地理院委員

残りの活火山に対するカルテ（案）を気象庁が年内までにまとめるが、これに対し各責任分野の委員が年内に資料やコメントを気象庁に送ることになった。

気象庁は、これらによってまとめたカルテ（案）を、次回連絡会までに各委員が検討できるよう、昭和５０年正月早々各委員に送付する。

5. 最近の火山活動について（報告および検討）

5.1　桜島　　末広、加茂、瀬戸委員報告

〔統一見解〕

桜島火山は活動期に入っており、各種の観測資料からみて将来更に活動の高まる可能性がある。しかし、非常に近い時期に溶岩流出を含む大規模な活動が迫っていることを意味する資料は特に得られてはいない。

現在の技術水準では大活動が近くなればある程度の前兆をつかみうると期待されるので、今後とも総合的観測を強化して防災に役立つ情報を得るべく努力を続ける。

5.2　阿蘇山　　久保寺、末広委員報告

現在、活動の最盛期は過ぎていると思われるが、8月5日以降実施中の立入禁止は継続すべきであると考える。

〔若干の避難施設を造るよう計画を進めている（国土庁）〕

5.3　新潟焼山　　下鶴、末広委員報告

被害が出たが、その後の観測によれば火山体直下の地震はなく、活動は急速に衰退していると思われる。

5.4　鳥海山　　高木，末広，横山委員報告

その後活動は衰退に向っているが、過去の噴火例からすれば、活動は消長を繰返すと思われるので、東北大学では引続き観測を継続、気象庁も異常が出ればすぐに立上れる態勢をとっている。なお、北大が主となって行なった赤外線温度計による観測でも、あまり温度は高くはなく、現在活動は順調に沈静化している（8月30日IR映像空中撮影、10月13日現地調査）。

5.5　西之島新島　　杉浦委員報告

前ほどではないが、なお活動を継続する気配がある。今後共、水路部が主となり監視を継続する。

5.6　小笠原硫黄島　　高橋臨時委員報告

最近防災センターが行なった観測（5月30日～6月4日）では、火山性微動もあり、地震も多く、活発化の傾向がみられる。

5.7　草津白根山　　下鶴委員報告

地震研究所が10月に4点で地震観測を行なったが、浅い地震を観測した。火山ガスも異常であり（東工大・上智大報告）やや注意を要する。

気象庁は11月から来年3月まで震動観測を実施する。

5.8　三原山　　横山委員報告

急激に活動が衰退することはないが、これから活動が大きくなる傾向はない。

5.9　十勝岳　　諏訪委員報告

噴気や硫黄昇華物がふえているなど若干異常があるので注意を要する。

来年北大が観測を実施する。

6.　連絡会庶務報告

7.　協議事項

7.1　極地研究所員神沼克伊氏に幹事を委嘱することについて、末広委員から提案あり、了承された。

また、環境庁から委員を推薦してもらうことについて、加茂委員から提案あり、気象庁で事務的な検討をすることになった。

7.2　会報の編集について

意見があれば連絡会庶務あて通知する。

7.3　会報の配布について

7.4　次回連絡会の開催日時

末広委員が委員と相談し、でさるだけ早い機会に通知する。

〔17：00～17：40、気象庁記者室において報道機関に対しレクチャーを行なった〕。